

次期堺市SDGs未来都市計画の策定の方向性について

■ 国際社会

● 2024年9月 国連サミット

ゴール達成への進捗が危機的状況にあり、2030年に向けてより加速した取組が必要と提言があった。

■ 国内

● 2023年12月 「SDGs実施指針」改定

国の持続可能な発展と繁栄の観点から、以下の視点をもとに指針が改定された。

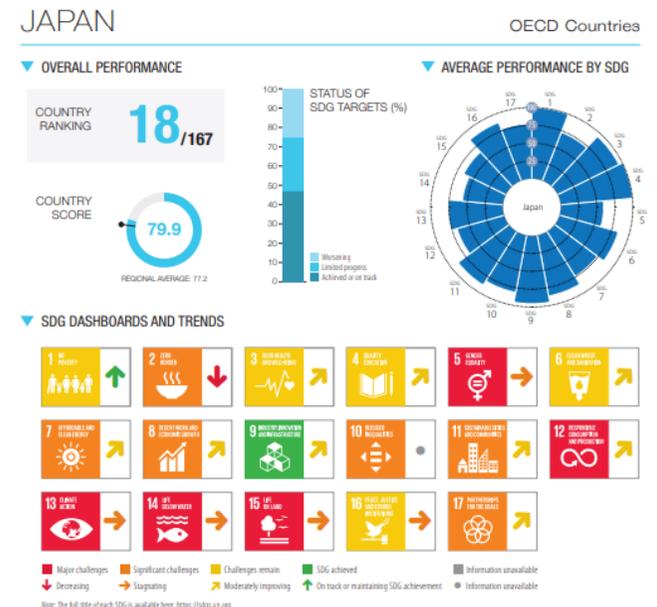
- ①SDGs達成に向けた取組を強化・加速
- ②国際社会にさらに貢献
- ③多様なステークホルダー（とりわけ若い世代）の参画

● 2024年度 SDSN (※) における日本の評価

167か国中**18位（前回21位）**。17の目標ごとのSDGs達成状況は、右図のとおり。

アイコンの背景色は、緑が「達成済み」、黄色が「課題が残る」、オレンジが「重要な課題がある」、赤が「深刻な課題がある」。

※国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」の略で、世界各国のSDGsの達成度を評価したレポートを毎年度発表している。



(出典 : Sustainable Development Report 2024 p.252)

■大阪府

●2025年 大阪・関西万博の開催

開催意義に、2030年のSDGs達成と、その先（+beyond）への飛躍の機会と位置付け

名称： 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

会期： 2025年4月13日～10月13日

会場： 夢洲（大阪市此花区）

テーマ： いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ： いのちを救う
いのちに力を与える
いのちをつなぐ

コンセプト： 未来社会の実験場

※大阪ヘルスケアパビリオン（右イラスト参照）

オール大阪で出展する同パビリオンでは、SDGs達成への貢献をめざす取組の一つとして、大阪公立大学植物工場研究センターの研究成果を取り入れたアクアポニックス「いのちの湧水（いずみ）」を設置。

「アクアポニックス」とは魚と植物が共生する食料生産システムであり、魚の排泄物や食べ残しが微生物により分解され、植物の養分になることに着目し、資源循環型として考えられたもの。



■堺市

●市民（2024年度市政モニターアンケート）

「SDGsを意識した行動について、どの程度取り組んでいますか。」の問いに対し、「意識している」市民は95.5%であり、2021年度の81.4%から向上したが、**「常に意識し行動している」市民は8.1%であり、2021年度の6.1%から低く推移している。**

●企業（2024年度地域産業経営動向調査）

「SDGsの認知度および取組状況をお答えください。」の問いに対し、「認知している」企業は93.0%であり、2021年度の82.0%から向上した。現行計画ゴール17のKPI指標とする**「重要性を理解し取り組んでいる」企業は27.0%であり、2021年度の13.0%からの向上は**見られるが、目標値（33.0%）の達成には更なる促進が必要。

●さかいSDGs推進プラットフォーム会員（会員向けアンケート）

「プラットフォームに入会后、SDGsに関する意識の変化はありましたか」の問いに対し、80.2%の会員の意識が向上したが、**「意識が向上し行動につながった」会員は34.7%であり、更なる行動変容に向けた促進が必要。**

※その他意見でも、**活動意欲はあるが、第一歩のアクションに課題**を感じている声や、「会員活動に対する表彰制度を設けてほしい」などの**事務局への期待の声**もあった。

次期堺市SDGs未来都市計画の方向性（案）

次期SDGs未来都市計画においては、現行計画における課題も踏まえながら、SDGsのゴールとなる**2030年の目標達成**を強く意識し、更なる加速した取組を進めるため、引き続き市政運営の大方針である**次期堺市基本計画と連動した計画として策定**する。

2021年

2025年

2030年

SDGsの
認知を向上



SDGs達成への
飛躍と取組加速

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



堺市SDGs未来都市計画
(2021～2025)

- 堺市基本計画2025と連動した全庁での施策推進
- 各ステークホルダーと連携したSDGsの周知啓発

次期堺市SDGs未来都市計画
(2026～2030)（予定）

- 次期堺市基本計画と連動した各ゴールのKPI目標達成
- 各ステークホルダーのSDGsアクションの促進

次期堺市SDGs未来都市計画策定による対応（案） ①

内閣府が定める「SDGs未来都市計画策定要領」による計画の章立て				左記「策定要領」が示す記載項目	現行計画の該当ページ	①次期計画策定による対応（案） ②上記①の理由
1	将来ビジョン	(1) 地域の実態	①地域実態	・地域特性等について記載	2～4ページ	①修正（一部） ②「堺の歴史」など、不変的な情報については、現行の記載内容を踏襲する。また、現行計画の期間内に進展があった内容の一部修正を行う。
			②今後取り組む課題	・今後取り組む課題等について記載	5ページ	①修正（一部） ②人口減少や高齢化率上昇等の課題については、今後も継続的な取組が必要となるため、現行の記載内容を踏襲し、今般の策定の考え方や今後の取組内容の一部修正を行う。
		(2) 2030年のあるべき姿	・2030年のあるべき姿（将来像）を記載	6ページ	①現行計画から引き継ぐ ②あるべき姿（将来像）については、2030年のSDGs達成をめざし掲げた計画の基礎となる項目であるため、現行の記載内容を踏襲する。	
		(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	・優先的なゴール、ターゲットを、経済・社会・環境のそれぞれの側面から記載 ・2030年を目標年次としたKPIの設定と設定理由を記載	7～8ページ	①修正（一部）	
					②上記1. (2) の考え方から、本項目に設定する優先的なゴール・ターゲットについては、現行の記載内容を踏襲する。また、 KPI指標のうち、堺市基本計画と共通の指標については、可能な限り指標内容、目標値について整合を図る。	

次期堺市SDGs未来都市計画策定による対応（案） ②

内閣府が定める「SDGs未来都市計画策定要領」による計画の章立て			左記「策定要領」が示す記載項目	現行計画の該当ページ	①次期計画策定による対応（案） ②上記①の理由
2	自治体SDGsの推進に資する取組	(1) 自治体SDGsの推進に資する取組	・今後計画期間内に先導的に進める取組とKPIを記載	9～20ページ	①修正 ②各ゴールに掲げる2030年のゴール実現イメージは、上記1. (2) の考え方から、現行内容を引き継ぎ、各ゴールのKPI指標とゴールに資する主な取組については見直し修正を行う。また、 KPI指標のうち、堺市基本計画と共通の指標については、可能な限り指標内容、目標値について整合を図る。
		(2) 情報発信	・市内向け、市外向け（国内）、海外向けに分類して記載	21ページ	①修正 ②SDGsに関する取組発信、普及啓発などを主とした記載項目のため、「さかいSDGs推進プラットフォーム」を中心とするSDGs推進に関する取組の方向性を反映するなどの修正を行う。
		(3) 普及展開性	・他の地域への展開策を記載	22ページ	①修正（一部） ②自団体が進める先進的な取組を他地域（自治体）へ普及展開させる内容や方向性を記載する項目のため、「さかいSDGs推進プラットフォーム」を中心とする取組実績を踏まえた時点修正を行う。

次期堺市SDGs未来都市計画策定による対応（案） ③

内閣府が定める「SDGs未来都市計画策定要領」による計画の章立て		左記「策定要領」が示す記載項目	現行計画の該当ページ	①次期計画策定による対応（案） ②上記①の理由
3	推進体制	(1) 各種計画への反映	23～25ページ	①修正 ②現行計画策定以後に、SDGsを念頭に計画策定、改定を実施した各種市の計画を反映する修正を行う。
		(2) 行政内部の執行体制	26ページ	①現行計画から引き継ぐ ②市長をトップに構成するSDGs未来都市推進本部の推進体制により、現行計画の推進が進められたことから、次期計画でも同体制による推進に向け、現行の記載内容を踏襲する。
		(3) ステークホルダーとの連携	27～28ページ	①修正 ②さかいSDGs推進プラットフォームを中心とした公民連携での取組実績や、今後の市民、企業等の行動変容の促進に向けた取組内容や方向性等を反映するなどの修正を行う。
		(4) 自律的好循環の形成		
4	地方創生・地域活性化への貢献	-	28ページ	①修正（一部） ②本計画内の取組内容のうち、まち・ひと・しごと創生法による地方創生に貢献する取組を反映するなど一部修正を行う。